

上高地～涸沢～奥穂高縦走 山行報告書

【山域】北アルプス

【日時】2019 年 11 月 2 日～4 日

【ルート】上高地～涸沢～奥穂高縦走

【構成】C L 土屋

S L 西岡

S L 佐藤

広木（愛）

菊池

記録 岩井

11 月 1 日

19:30 千葉駅北口ロータリー集合（佐藤車）
東関東自動車道 首都高速 中央自動車道にて移動
11:30 沢渡大橋駐車場到着
12:00 宴会
後、就寝

11 月 2 日

5:30 起床
6:30 タクシー乗車 上高地バスターミナルへと向かう
7:30 上高地出発
8:11 明神館到着
9:05 徳沢園到着
9:25 横尾山荘到着
11:04 本谷橋出発
15:00 涸沢到着
16:00 夕食 宴会
20:00 就寝

11 月 3 日

4:00 起床
コーヒーから始まる。
朝食
6:00 出発

9:40	ザイテングラード
10:10	穂高岳山荘
11:20	奥穂高岳山頂
12:20	穂高岳山荘
15:00	涸沢到着
16:00	夕食 宴会
18:30	終了 就寝

11月4日

4:00	起床
	朝食 おじや 雑炊
6:00	撤収作業開始
7:00	出発
7:40	事故発生
12:15	ヘリコプター搬送
14:30	横尾山荘到着
15:30	徳沢園到着
16:20	明神館到着
17:30	上高地到着
	沢渡へ 乗車して温泉へ
	松本インターから帰葉

本文

11月2日

快晴の秋晴れの中、天候は最高の三日間でした。初日の夜に沢渡に到着した際には周囲の状況は確認できませんでした。翌朝、駐車場付近は紅葉が深く色づきは素晴らしかったです。



沢渡大橋駐車場からタクシーに乗車し、白樺林の間をくぐり抜け上高地バスターミナルに到着。



ここで、不覚であったのは。気温が下がると飲み水の水道は昼まで断水する事でした。しかし、ここで500mlだけ売店にて確保し横尾にて給水する事にしました。

この後、順調に河童橋まで進みました。



山並みは冠雪しており、この先に期待感を感じずにはいられませんでした。

多少の上下はありますが、ほぼ、平地の道程を進んで行きます。

明神館で暫し休憩し、徳沢園へと向かいました。



こちらで少し長めの休憩となります。



皆さんが集合するまで待って、歓談となりました。
頃合いを見て出発となりますが、気候は暑くもなく、寒くもなく、程よい状況でした。
途中、唐松の紅葉が目の保養になりました。



横尾までさほど時間もかからず歩みを進めます。



この時、空を見上げると雲一つない、正に快晴でした。
私は給水しまして、一安心です。
皆さんは暫し歓談となり、山容を見渡して心なしか安心したところがありました。





本谷橋まで登山道には殆ど雪は被っておらず。順調に進んで行きました。

本谷橋以降、私は素直に、重力に負けました。ペースが目に見えて遅くなり、後塵を拝することになります。

涸沢のテント場に到着する時間は 15:00 となってしまいました。

明確に体力不足でした。

しかし、気を取り直して、食事の準備となります。

食事のメニューはステーキ、ちらし寿司、お刺身、ボイルドウィンナー、ビール、ワイン、ウイスキー、等。バリエーションに富んでいました。

飲み会の後、就寝となりました。

11月3日

4:00 に起床した後、目覚めのコーヒーを嗜みました。

おじやを皆で食し。山行となります。

当初の計画は涸沢～奥穂高～涸沢岳～北穂高～涸沢の縦走ルートでした。



朝方の山塊は静寂の中、神々しく佇んでいました。



涸沢小屋を経由してザイテングラードまで進み、冬道を通り穂高岳山荘へと歩みを進めます。



途中アイゼンを装着します。



ザイテングラードの横を通過する際、私は雪に足が上手く力が加わらず難儀しました。しかし、標高が上がるにつれてしっかりと踏みしめる事ができるようになり、楽になりました。程なく、穂高岳山荘へと到着します。



クライマックスは登頂へのアタックです。
岩場、鉄梯子、鎖馬を越え、強風の中、視界も十分ではなく、不安もありました。



しかしながら、皆、耐えて着実に進みます。
無言で、足元を確認しつつ、確実に且つ安全に。
ある時、これ以上、登る場所が無い事に気が付く。

だが、そこには歓喜があった。



皆で登頂の喜びを分かち合っている。確かに、ガスが掛かり視界性は悪かったのだが、そこには、最上の歓喜があった。

写真を撮り合い

証拠を撮る事、10分位であろうか。

下山の時となる。

順調に穂高岳山荘まで歩み、天候そして時間的に涸沢岳を経由することはあきらめた。もと来た道程を帰る事とした。

この帰路の途中、ガスが晴れ始めた。

道程が露になった。



これを見て、個人的に少し誇らしげになりました。
下りにて所々、休憩を取りつつ涸沢まで降りていきます。



この光景を見て、まるで「戦士の休息」の様だ。
私はそう感じました。

途中、アイゼンを外し涸沢小屋まで進みます。



テントに帰還した後は、すぐに宴会となりました。

夕食のメニューは

海鮮鍋、ステーキ、お刺身、穂高岳山荘にて購入したビール、ワイン、ウイスキー等

この日も盛り沢山でした。

翌日の朝は鍋でできたスープにて米を炊こうという事になり。4:00 起床予定となりました。

11月4日

4時に起床し、コーヒーをまた、嗜んでから食事の支度となりました。

6:30にはテントの撤収作業に取り掛かりました。

7:00に下山開始となりました。

当初、全て順調、幾ばくかの安堵感が全員に広がったと思います。

11:40西岡氏が転倒、右足を痛め、歩行困難となりました。

佐藤氏と私は装備をとりあえずその場に置き、少し引き返し西岡氏の所まで戻り状況を確認。土屋氏、佐藤氏、菊池氏が横尾山荘まで進み、救助要請を行う手筈とし、広木さんと私が事故発生場所に残り西岡氏の救助を待つ事としました。

事故発生場所の「青ガレ」はこのような場所となっております。



所々、雪が付いておりました。

事故発生場所にて気が付いたことは、全く情報が入らない事です。

安堵した瞬間は、一人で下山途中の男性が衛星電話を所有しており、有難くも、それを使って長野県警との連絡を取り持って頂いたときになります。

「涸沢から救助が来ており、ヘリコプターが出動する」

そう、教えていただきました。

これで、待っていれば良い。そう思いました。

救助隊の二方は応急処置を取り、いくつか無線で状況を伝え、西岡氏に注意事項を確認。

ヘリコプターは 12:05 到着。12:15 に搬送していきました。

有難くも、広木さんのザックも搬送していただき、残った西岡氏のザックを広木さんが担ぎ、下山に取り掛かります。

本谷橋の手前で土屋氏と合流。

更に横尾山荘にて残りの全員と合流。

17:30 に上高地バスターミナルに到着。

温泉に寄り、山行の垢を落としてから帰葉しました。

【反省点】

一種、当時、安堵感のようなものがありました。立場が逆転していてもおかしくはありません。

私にとっては、良い、「戒め」となりました。

皆様にはご心配をかけまして、誠に申し訳ありません。

慎重さが私にも無かったと思われます。

尚、一層の精進をしてまいります。

以上